

Tokai Fubokon Letter

～高2学年懇談会ご報告～

2月17日(土)、高2学年懇談会が講堂にて開催されました。170名もの父母・教員の皆様にご参加いただき、次のような内容で会が進行しました。

- オープニング 東海学園交響楽団演奏
- 学年主任挨拶 高2学年主任 山田隆周先生
- 受験期をどう過ごすか 高3学年主任 籠谷優先生
- OB 父母発表 卒業生父母 岩井圭子さん
- OB 生徒発表 北越一輝君(名古屋大学・医)
深坂正太君(京都大学・法)
- 文理に分かれての分散会



【山田隆周先生(高2学年主任)】

先日、家族で行った名古屋市美術館の「ガウディとサグラダ・ファミリア展」の序文にこんな言葉がありました。「私たちの歴史的世界は、環境が人を作り、人が環境を作り、作られたものから作るものへの移り行く世界」(哲学者・西田幾多郎)。我々東海高校の教員も環境作りに重点を置き、この2年間生徒たちと関わってきました。それは「共に生き・共に学ぶ落ち着いた環境」。すなわち、それぞれが現在地を確認し、そこから自分らしく進んで行くことができる環境です。現在地はそれぞれ違います。どこにしようとも、現在地を恥じ



ることなく、おごることなく、焦ることなく、油断することなく、それぞれが淡々と、邪魔をすることなく、邪魔をされることなく自分の課題に取り組める環境を作れるよう取り組んでいます。テストの結果やテストに向けての取り組み、あるいは授業を受ける姿勢や周りへの配慮、授業以外での活動を見ていると、多くの生徒たちの成長を感じています。



私たちがこれからも彼らに望むことは、「環境によって作られてきた彼らには、互いの成長にとってより良い環境を作る担い手になって欲しい」ということです。東海の歴史における規範となるような、成長が絶えず起こる環境を作り、それを後輩たちに示して欲しいです。

最後に。保護者のみなさまは生徒の代わりに受験をすることが出来ません。つまり、皆さんも環境作りの担い手なのです。これから大学入試へと向かう生徒たちへの環境整備には、保護者のみなさまの協力が不可欠となります。

【籠谷優先生(高3学年主任)】

○来年度の1年の流れ

4月 みな目標に向かって前向きであり、授業も集中している。

5月 模試が始まる。基礎的な問題が出題される共通テスト模試は、自分の理解度の確認になるので受けた方がよい。

校内夏期講習の案内が開始。夏休みをどのように過ごすのかイメージする。

6月 塾の夏期講習などの具体的なスケジュールを立てる。

7月・8月 基礎完成。自分に合った生活リズムを考え、学習するペースを崩さない生活を。リフレッシュする時間も重要。夏休み前の小論文ガイダンスは、私大の医学部や慶應大学希望者は参加した方がよい。医学部希望者は面接試験のガイダンスも参加するとよい。

受験の下見や学校の雰囲気を感じることができ、オープンキャンパスにも参加した方がよい。モチベーションが上がる。

8月 総合型選抜を希望する場合は学校の推薦委員会で認可が必要となるので、担任に相談を。

9月 応用力をつける。私大推薦を希望する場合はクラス掲示板を確認後、早めに担任に相談を。国立推薦は各自で情報を入手し、担任に相談すること。

記念祭 高3の模擬店は企画から仕入れ、調理販売をみんなで取り組み、一生の宝となる。

10・11・12月 模試の判定など結果が付いてこず、精神的に追い詰められる時期。食事の量が減るなど、様子がおかしいことがあれば、担任の先生に相談して欲しい。ご家庭でも注意が必要な時期。担任の先生とどの大学に出願するのか話し合う。

共通テストの結果が良い場合と悪い場合を想定し、志望校を具体的に考えておくとよい。ネット出願が始まるので、情報収集を行ったうえで準備を始めていく。

1月 共通テストが終わったら翌日学校に来て自己採点を提出する。アンサーを見ながら最終的に出願する大学を決めていく。

2月 私大受験が始まる。行かなくてもどこか願書をだしておいたほうがよい。合格がでるとモチベーションが上がる。12月終業式以降、学校に行くのは5日くらい。

3月 例年、国公立前期の結果が出る前に卒業式。

○受験におけるポイントや留意点

① 学校の授業を上手く活用する

学校を休んで塾に行くことは、精神的に追い詰めることになりかねないので要注意。

② 学校行事を大切に

受験勉強の息抜きだけでなく、人間関係を育みながら成長していくことが今後の人生に繋がっていく。

③ 世間体や周囲の期待で学校を選ばない

本人の希望・展望に応じたプランニングができていく生徒は、周囲に流されずに学習し成長する。自分がどうありたいかが大切。

④ 大学生活をイメージし話し合う

どんな先生がいるのか、どんな学問がしたいのか、大学に入ってからの生活をイメージすることでモチベーションがあがる。ただし、無理やり聞き出そうとしないこと。本人の考えがまとまっていないのに聞き出そうとすると「やりたいことがないとだめなのか」と考えてしまう。

⑤ 東海生は最後まで伸びていく

特に共通テストで基礎力が完成しているので、二次試験に向けて学習する間に大きく成長できる生徒がしばしばいる。

⑥ 受験は一人で行うものではなく、同級生や家族、その総体としての学校・学年との繋がりを通じて乗り越えていくもの。

子どもの様子を見ていて、辛くしんどい時にはクラス懇親会や父母懇の集まりを利用していただき、学校全体で乗り越えていこうと考えています。

○最後に・・・

総じて見守る。尊重する。色んな経験をする中で彼らはすごく成長していきます。どうか東海での最後の時間をご子息と共に過ごしていただければと思います。



【OB 父母 岩井圭子さん】

○自己紹介

昨年まで昭和区の事務局をしていたご縁で、今回のお話をいただきました。息子は現在神戸大学医学部一年生。中高ではオーケストラ部に所属していました。楽器経験は小学校でのリコー



ダーくらいでしたが、入学式のオーケストラ部の演奏にとても感動したそうです。先輩方の家庭的な雰囲気にもひかれて入部を決めたと言っていました。

中学時代の多感な時期に、顧問の先生が息子の学年を一对一で面談してくれたことがあったそうです。個性派ぞろいの学年で、一部の友人関係がうまくいっていなかった息子に、周囲にどんな人がいてもよくて、互いを認め合うこと、その人の良さを受け入れていくことの大切さを話してくださったそうです。これがのちの彼の人格形成の一つのヒントになり、ここ東海で生涯の友人関係を築くことができたと感謝していました。

神戸では塾や飲食店でバイトをしています。大学ではゴルフ部に入部して、秋にはコースデビューしたと楽しそうに報告してくれました。車の免許も夏に合宿で取得して、この一年で一気になった感じですか。来月は大学の友達とヨーロッパにサッカーの試合を見に行く予定で、それに向けてバイトに励んでいるようです。最初は家から出て行ってしまうと寂しいかなと思いましたが、誰も知り合いがいない中で、自分なりに生活を整え、楽しんでいる様子を聞いて家から出せてよかったなと思っています。

○学部選択

中学時代

自分の将来についてよく考えていましたが、なかなかこれというものが見つからず。時々相談されることもありましたが「人のためになって、感謝してもらえる仕事に就けたらいいね」と話していました。

高1

文理選択も迷うが自分の可能性のある理系を選択。

高2

とある秋の日、「医学部に決めたので、もう何も言わないで」と。表情がいつもの迷っている感じではなくて、確固たるものとなっていました。悩み疲れて、医学部に決めた瞬間に気持ちが楽になって、もうあとは勉強するしかないと思えて前に進めたそうです。ウクライナ戦争下で、ウクライナの病院が敵国の兵を助けたニュースに心が揺さぶられ、全人類に必要であり味方になれるこの職に就きたいと思ったとも言っていました。

高3

高3になり部活を引退して、ほぼ全員がチームとなり受験モードに突入。これは東海の良さ。家でだらっとしていても、それは外で気を張ってやってきた合間のことかもしれないので、見守ってあげてほしいです。のちに息子に聞くと「不自由なく勉強させてもらっているから、成績は自分でなんとかしなくてはいけない」という考えになっていたとのことでした。

7月には模試の結果が急降下。部活引退後、勉強時間はとれているはずなので、原因がわからず焦ったようです。(私は何も知りませんでした。)勉強量をむやみに上げて成績は上がるものではないと経験上わかっていたので、勉強のスタイルは崩さず、成績低下はむしろ夏休みの勉強のモチベーションにしよう、プラスに捉えて夏を迎えたようです。

夏の面談では、志望校は家から通える名古屋大学と確認していましたが、秋になって急に県外も考えたいと言ってきました。

受験も押し迫った10月、「大学見に行ってみる？」と私から声をかけ、その翌日に私が大学時代を過ごした神戸へ日帰り観光に行きました。大学を含め神戸の街並みも観光し、二人でロープウェイにも乗りました。丸一日一緒にいて、将来のこと、今思っていることを聞き、彼の考えを深めるいい時間となりました。この時の感想を聞いてみると「自分で考えたことを本気で受け止めてくれて、翌日に行動に移してくれたこ

とに感謝している」と言ってくれました。11月には京都府立医科大学の見学も行きました。

12月にはサッカーW杯があり、3試合ほど友だちとカラオケBOXで観戦しました。サッカーが好きな彼に対し、親から「NO」という選択肢はありませんでしたが、日本が負けた時は少しホッとしました。

受験期 1~3月

いよいよ共通テスト。初日は緊張していたのがわかりました。一年間の模試を通してルーティンができていて、当日の昼食もいつもと全く同じものを食べたそうです。模試は、その時の実力を測るものであると同時に、解答時間を体に染み込ませたり、昼食を取ったりと当日をイメージして受けるものだと思います。帰宅後は、模試で慣れていたのですぐに緊張はほぐれたとも話していました。

自己採点后、出願先はものすごく悩んでいました。最後は自分で決められるはずと本人に任せました。医学部は面接があるので練習を兼ねて私立受験もしました。藤田医科大学の面接は制服不可のため、白シャツに黒セーターで行ったところ「みんなリクルートスーツ!」と息子からLINEが。ここまで来たら仕方がないので、「自信を持ってやりなさい」と送り出しました。結果は合格を頂けましたが、当日焦らないように、事前に準備できることだったので反省です。

家探しは12月頃からぼちぼち情報を集め始めてもいいかもしれません。大学の住まいの相談会とか大学生協の学生の物件を扱う不動産屋に問い合わせるなどができると思います。神戸大学医学部周辺は社会人にも人気のエリアで、合格前予約ができなかったこともあり、少しでも早く家探しに取り掛かれるように合否は神戸駅で確認しました。

3月は神経もすり減らし、決めなくちゃならないこともたくさんあったのですが、今となってはすべていい思い出です。

○親として何ができるか

- ・本人の気持ちを尊重して、本人が決められる環境を整える
- ・焦らずに見守る
- ・学校を頼る

400人いれば400通りの受験があります。困ったらぜひ東海の先生方に相談してみてください。息子も私もここまで来るのに、多くの先生方にお世話になってきました。皆さんあたたかくて、私はこの学校に通えた息子のことを本当に羨ましく思いました。

同じ屋根の下で暮らせるのは最短であと一年になるかもしれません。この貴重な一年をじっくり噛み締めてください。

○最後に

初めての受験の方も大勢いらっしゃると思います。基本的なことがわかっていなくて、医学部って面接があるんだとか、アンサーシートって何?とか、こんなこと聞いて恥ずかしいかもと思っていましたが、高3のクラス懇談会では、皆さんが簡単なことでもわからないことを先生に聞いてくださって共有できたので、私だけじゃないのねと安心できました。また、地域懇に参加いただけますと、担任ではない先生ともお話しできる機会もありますので、ぜひそういった機会も利用しながら受験期を乗り切っていただきたいと思います。

【名古屋大学医学部1年 北越一輝くん】

○受験までの過ごし方

高2までの生活

中1~高2の11月までハンドボール部に所属していましたが、部活動が忙しく、塾には3分の1程度しか出席できませんでした。高2、高3ともにB群でした。



高3夏休みまでの生活

平日は、毎日塾に通い、授業がないときは自習室で勉強をしました。土日は、一日中塾の自習室で勉強しました。学校の夏期講習も活用しました。

この時期は、徹底的に基礎固めをしました。基礎が定着しないと、模試等で点数の振れ幅が大きくなるからです。夏休みからは、少しずつ応用問題に着手しました。

2学期～共通テストまでの生活

毎日塾に通い、授業がないときは自習室で勉強をするという生活を続けました。少しずつ校内の成績も上がり、模試の成績も上がっていきました。夏休みからは模試の数が多くなりますが、全部受けると復習する時間がなくなるので、取捨選択することも大切です。

模試の結果が悪くても落ち込まず、間違えた問題を丁寧に解き直すことが重要だと思います。記述問題(特に英語の和文英訳、自由英作文など)は、先生に採点をしてもらうことをお勧めします。

共通テスト～2次試験までの生活

2次試験の前日まで、一日中塾の自習室で勉強するというスタイルは変えませんでした。学校の冬期講習も活用しました。

国公立大学の出願は、自分一人では自信がなかったため、親にも確認してもらいながら出願手続きをしました。私立大学の入試は、想像以上に時間も体力も使うので、自分はあまり多くしないほうが良いと感じましたが、これについては人によると思います。

○保護者の方へ

- ・健康管理をお願いします。
 - ・お金のことは気にしています。
(受験料、入学金、浪人した場合の塾の授業料、1人暮らししたときの生活費など、子どもながらに気にしています。)
 - ・成績は気にしないでください。
(黙って見守っててください。)
- 合格を心よりお祈り申し上げます。

【京都大学法学部1年 深坂正太くん】

勉強をどうしたかは他の方が紹介してくださったので、現在通っている京大の紹介をして、後半に受験の失敗、そこからどうやってメンタルを維持しモチベーションを保ったかをお話できればと思います。



○京都での生活

皆さんご存じかわかりませんが、熊野寮という寮で暮らしています。全国でも珍しい自治寮です。学生が組織する自治会というものが存在して、寮の管理を学生が行っています。誰が寮に入るかも学生が決定する寮です。部屋についても、今では珍しい大部屋で、4人でひと部屋です。プライバシーありませんが、交流が生まれて友達ができるので、この寮に入ってよかったと思っています。経済的にもいいところで、家賃光熱費、自治会費込みで月々4300円と、家賃の安い京都でもかなり安いほうで、浮いたお金を旅行などの他の体験に充てることができます。京大志望のお子さんをお持ちの親御さんはぜひご検討ください。

○京都大学について

京大では法学部に所属しています。京大法学部の大きな特徴は、成績評価がテストの結果 100%などです。大学の成績というところ、テストはもちろんですが、多くの大学がレポートや出席状況が評価に大きく影響するなかで、京大法学部の専門科目は、成績の評価はテストの結果のみで、違う言葉を選べば授業に出なくてもいいとも言えます。これは普段遊んでいても直前の追い込みで乗り切ってしまう東海生向きなのではと思っています。

卒業後の進路は法曹界が多く、3分の1が法科大学院大などへの進学、3分の1が公務員・民間への就職、3分の1が留年となっています。

また、本年度は法学部学生自治会副常任委員長も務めました。自治会ではサークル棟の自治管理や議事の進行、大学の執行部との交渉などを主に担っています。京大の魅力はやはり自治と自由であり、学生自身が決め、学生自身が作り上げていくところにあると思います。

○アルバイトについて

身の回りの東海OBは家庭教師や塾講師が多いですが、私は法律事務所の事務バイトをしています。大学に入ってこのようなバイトがあることを初めて知りました。ほかの人と違う貴重な機会をいただいていますので、お子さん方にもいろいろな選択肢を考えてほしいとお伝えいただけたらなと思います。

○受験生時代

あまりまじめな生徒ではありませんでしたので、受験体験としては参考にはならないかもしれません。失敗談として心に残っているのは成績が低下した時期があったことです。夏の時点の京大冠模試で A 判定が出ていて、自信もついたり、モチベーションも高く持つことができていました。しかし成績が取れていることで、驕り高ぶり、天狗になってしまって、勉強せずに YouTube やゲームをしてしまい、秋の模試では口にできないほどひどい成績を取ってしまいました。模試の成績が悪いと、本番の試験に太刀打ちできないということもありますが、それ以上に「メンタルにくる」のが一番大きいと思います。大きな不安感を持ってしまい、眠れなくなってしまうのが辛かったです。睡眠が不足するとイライラして、物にあたり、人にあたり不要なトラブルを招いたりします。私は毎日 8 時間睡眠をとれるようにしていました。睡眠はメンタルを安定させるのに本当に大切です。少ない睡眠時間で過ごしているお子さんには「睡眠が大事だ」と OB が言っていたとお伝えください。

ストレス発散の一環としていたのは外食でした。テスト明けは昼過ぎには学校が終わりますので、友達と栄などに行っていました。特に外国の料理にはまっていて、韓国料理やベトナム料理、ウズベキスタン料理のランチセットを食べて気分転換をしていました。

また体を動かすのも大事にしている、自転車通学をしていました。適度な運動でメンタルの安定や気分転換につながりました。

受験期に限らず、運動・睡眠・食事はメンタルを安定させるうえで大事なことだと思います。

○親との関係

母は勉強に関心があるほうではなく、高2までは成績について聞かれることはありませんでした。高3からは「大丈夫か?」と聞かれることもありましたが正直うとうとし感じてしまいました。不安な気持ちはわかりますが、成績について口にするのは最低限にとどめておいたほうが良いと個人的には思います。受験は「自分事」ですから、いつかはお子さんも気が付きます。言われたらやりたくなくなる、というのはよく聞く

話ですが、親が言わないでおいても、最後には「自分で何とかしなくては」と気付くものだと思います。学校でも受験のことは嫌というほど聞かされていますので、家庭では家庭でしかできないこと、メンタルや体調について関わっていただければ、受験生としても過ごしやすいのではと思います。



編集後記

先日母校に立ち寄る機会がありました。実に四半世紀ぶり。当時の校舎もいくつか残っていて、ここで過ごした日々を思い出しました。にわかに母校愛が沸き上がり、帰りには売店で校章の入ったボールペンを買ってしまいました。(授業の内容についてはほとんど思いだせず、親には申し訳ない限りです) 息子も受験を乗り越えて、楽しい大学生活を送れるといいな。母は応援しています。

広報部